

## 全国学力・学習状況調査、広島県「基礎・基本定着状況調査」の結果をお知らせします。

### 【平成21年度全国学力・学習状況調査】3学年が対象（4月実施）

	国語A(基礎・基本)	国語B(活用)	数学A(基礎・基本)	数学B(活用)	全校学力調査は、中学三年生を対象に行われた調査で、国語と数学の2教科について、基礎的・基本的な内容とそれを活用する力を測るものです。また、学習や生活についての意識調査も行われました。
本校	74.3	70.7	60.9	54.6	
広島県(公立)	77.6	74.8	62.9	56.2	
全国(公立)	77.0	74.5	62.7	56.9	

#### 全国学力・学習状況調査の課題と今後の取り組み

全体的に、県平均、全国平均と比べ2～4ポイント低い結果が出ました。教科ごとに分析を行い、課題を明確にして改善に向けて具体的な取り組みを実施していきます。

##### 【国語】

本校生徒の国語の結果より、正答率の高い上位層の生徒が少なく、中位の生徒が多い傾向が見られました。それぞれの項目では、「話すこと・聞くこと」「言語事項」などは、全国平均との差はほとんどありませんが、「書くこと」「書く能力」に低い傾向がみられます。生活ノートや感想文等日常的に「書く」習慣づくりを進めます。また、小論文指導等を通して、「書くこと」への抵抗をなくしていく取り組みをします。

##### 【数学】

本校生徒の数学の結果より、生徒の正答率にばらつきが見られ、学力差が大きい傾向にあると考えられます。全領域において県平均や全国平均とほぼ等しいかやや低い傾向が見られました。「数量関係」や活用の問題における「数と式」の問題が平均を下回っています。習熟度授業で、基礎・基本が身につけていない生徒には、基礎・基本の問題を徹底的に繰り返し行い基礎学力の向上を図ります。上位層には、活用する問題にチャレンジさせるなど、論理的思考力を高める授業づくりを推進していきます。

##### 【学習や生活に関する意識調査】

計画的学習や予習・復習の時間が全国平均より低い傾向があるので、学習に関するオリエンテーションの実施による家庭学習の習慣化と意識付けを行います。また、生活ノートにより家庭学習時間の把握・指導をおこないます。ご家庭でも、家庭学習習慣化にご協力をお願いします。

### 【平成21年度広島県基礎・基本定着状況調査通過率】2学年が対象（6月実施）

	国語	数学	英語
本校	72.1	73.6	68.0
広島県平均	75.0	69.7	65.2

数学は3.9、英語は2.8ポイント上回りましたが、国語は2.9ポイント下回りました。それぞれの課題と今後の取り組みを以下紹介します。

#### 基礎・基本定着状況調査の課題と今後の取り組み

##### 【国語】

「書くこと」の領域では、記述する内容の整理や理由を整理して書くことの通過率が低い。「読むこと」の領域では、文脈上の語句の理解と登場人物の心情の把握、指示語の内容の把握について通過率が低い。という結果が出ました。日常的に自分の考えをまとめ書かせることが必要なので、国語の授業では、ノートに自分の考えをまとめて書かせたり、国語科以外でも学習内容の整理や感想をじっくり書かせたりする取り組みを行います。また、朝の読書で読んだ本の内容や感想を述べさせるなどの活動も取り入れて、文章を注意深く読ませ、内容を読み取る取り組みを進めます。

##### 【数学】

「数と式」の領域では、ほとんどの部分で県平均を上回っていましたが、一次方程式の立式や関係を文字式で表す問題の通過率が低い傾向が見られました。また、「図形の領域」も概ね県平均を上回っていますが、おうぎ形の面積の求め方では、本年度も通過率が低く課題として残りました。

基礎的な部分の理解はできている生徒が多いので、文章を読んで一次方程式を立式する学習については、反復学習を通して規則を見出させ定着させる活動を増やしていきます。

図形の学習におけるおうぎ形や円錐の体積を求める問題では、授業においては概ね理解していますが、普段使わないことで忘れてしまう生徒が多いので、定期的な繰り返し学習により定着を図ります。

##### 【英語】

「書くこと」の領域において、自分の考えや気持ちなどを読み手に正しく伝わるように書くことの通過率が低い傾向にあります。「話すこと」の領域では、あらかじめ読んだ文章についての問答や、自分の考えや気持ちなどを正しく相手に伝わるように話すことが苦手な生徒が多数います。これは、正確に単語や疑問文を聞き取る事ができないためと考えられます。

単語や基本文型についての反復学習を7單元ごとに実施します。また、定着度を図るための單元テストや小テストを行い、定着が極めて困難な場合には、補足的な指導を実施するなど確実な定着を図ります。

音読を繰り返し行い、単語や文章の正しい発音の仕方やイントネーションを身につかせます。読み物教材については、習熟度に応じて内容理解の為の英問英答などを行い、読みの定着を図ります。定着の確認には読みのテストなどを7單元ごとに行っていきます。

## 1 教科について

## 昨年度の課題

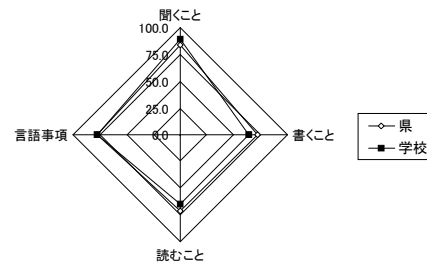
- ① 「書くこと」の領域については、特に記述や文章の構成についての理解が不十分な傾向がある。
- ② 「読むこと」の領域では、文章の内容や要旨の把握についての正答率が低い傾向が見られた。

## 昨年度の課題を受けて具体的に取り組んだ事項

- ① 文章に親しみ、書かれている内容の理解を促すために、短い文章や平易な文章を導入に使ったり、毎日行われている朝読書により積極的に取り組むよう指導を行い、読むことによる内容への抵抗感を少なくするように努めるとともに語彙を増やす取り組みも行った。
- ② 「書くこと」では、国語科での取り組みだけでなく、道徳の授業における感想等をきちんと書かせ、書くことに慣れさせ、自分の考えをまとめることに慣れさせる取り組みを行った。

## 「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	75.0%
学校平均	72.1%

重点課題 (◎: 「基礎・基本」定着状況調査  
◇: 全国学力・学習状況調査)

- ◎ 「書くこと」の領域では、記述する内容の整理や理由を整理して書くことの通過率が低い。
- ◎ 「読むこと」の領域で、文脈上の語句の理解と登場人物の心情の把握、指示語の内容の把握について通過率が低い。文章の内容の読み取りが十分できていないと考えられる。
- ◇ 「書く能力」において、他者の意見を聞いて自分の考えをまとめて書くことや「読む能力」では、内容を正確に読み取る問題についての通過率が低い傾向がある。

## 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 日常的に自分の考えをまとめて書かせることが重要である。国語の授業では、ノートに自分の考えをまとめて書かせたり、国語科以外でも学習内容の整理や感想をじっくり書かせる取り組みを行っている。また、朝の読書で読んだ本の内容や感想を述べさせるなどの活動も取り入れて、文章を注意深く読ませ、内容を読み取る取り組みを進めていく。
- ② 文章を読み、内容を理解する力は、「言語技術」の学習で文章の構成や情報を分析する技術を取り入れた授業を展開するとともに、要約などの言語技術の訓練を繰り返して行く。

## 数 学

三原市立第五中学校

## 昨年度の課題

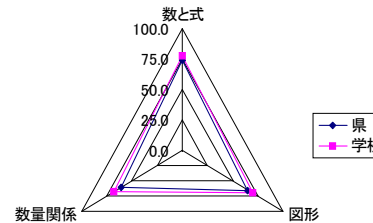
- ①数と式の領域では、数量関係の理解や一次方程式の立式について通過率について課題が見られた。
- ②図形では、おうぎ形の面積や円すいの体積の求め方について理解が不十分であった。

## 昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ①数と式の領域では、実例を用いて比例の関係を理解させたり、1次関数や2次関数の単元の導入として、比例や反比例の定義や式の作り方などの復習を行った。
- ②図形の領域では、具体物を用いて計測させたり、作図を実際に行わせたりし、体験を通して図形の面積を求めるなどの取組みを行った。
- ③グラフを読み取らせる練習として、統計データを用いて、生徒に考えさせる場面を増やすとともに、定期テストの問題にも学習内容を活用する問題を導入していった。

## 「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均 69.7%  
 学校平均 73.6%



重点課題 (◎:「基礎・基本」定着状況調査  
 ◇:全国学力・学習状況調査)

- ◎数と式の領域では、ほとんどの部分で県平均を上回っていたが、一次方程式の立式や関係を文字式で表す問題の通過率が低い傾向が見られた。
- ◎図形の領域も概ね県平均を上回っているが、おうぎ形の面積の求め方では、本年度も通過率が低く課題として残った。
- ◇数量関係の領域におけるグラフの考察といった学習した内容を活用する問題の通過率が低かった。

## 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①基礎的な部分の理解はできている生徒が多いため、文章を読んで一次方程式を立式する学習についても、反復学習を通して規則を見出させ定着させる活動を増やしていく。
- ②図形の学習におけるおうぎ形や円錐の体積を求める問題では、授業においては概ね理解しているが、普段使わないことで忘れてしまう生徒が多い。定期的な繰り返し学習により定着を図る。
- ③各小単元でのまとめとして、グラフの考察などのような活用の問題に取り組ませる。

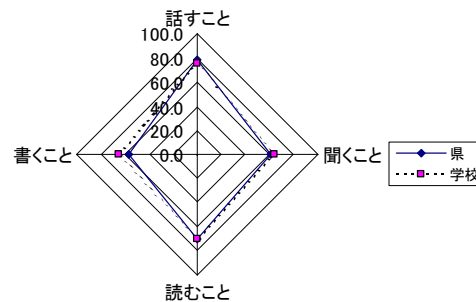
## 昨年度の課題

- ①基本的な文のきまりについて理解が不十分なことや、語彙力が不足している傾向が見られた。
- ②話すことでは、課題の意味を十分把握できなかったり、英語に対する苦手意識が英語によるコミュニケーションを消極的にしていた。
- ③黙読によって書かれた内容について十分理解することができない。

## 昨年度の課題を受けて具体的に取り組んだ事項

- ①本年度も単語・熟語・慣用表現・基本例文の反復学習を実施した。単語テストや文法小テストなどを繰り返し行い、基礎学力の定着を図った。
- ②自分の考えや気持ちを表現する機会を数多く設け、場面に応じて英文を書かせるなどの指導を行った。
- ③話すことの抵抗感をなくすため、ペアワークを多く導入し、英語によるコミュニケーションを積極的に行わせた。

## 「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均 65.2%学校平均 68.0%

## 重点課題

- ◎「書くこと」の領域において、自分の考えや気持ちなどを読み手に正しく伝わるように書くことの通過率が低い傾向にある。
- ◎「話すことの領域」では、あらかじめ読んだ文章についての問答や、自分の考えや気持ちなどを正しく相手に伝わるように話すことが苦手な生徒が多い。正確に単語や疑問文を聞き取る事ができないためと考えられる。

## 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①単語や基本文型についての反復学習を7單元ごとに実施する。また、定着度を図るための単元テストや小テストを行い、定着が極めて困難な場合には、補足的な指導を実施するなど確実な定着を図る。
- ②音読を繰り返し行い、単語や文章の正しい発音の仕方やイントネーションを身につけさせる。読み物教材については、習熟度に応じて内容理解の為の英問英答などを行い、読みの定着を図る。定着の確認には読みのテストなどを7單元ごとに行う。
- ③教科での指導の他にも学年体制として、5分間ドリルなどを継続して行う。

## (1) 生活・学習

改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組みの内容
<p>◎全体的に県平均とほぼ同じ傾向が見られる。「自分のよさはまわりから認められている」等、自己効力感における部分や将来展望など自己実現力においてやや低い傾向がある。また、「学校に行くのが楽しいです」の質問項目に対し「あまりあてはまらない」と答えた生徒が17.5%と県平均(12.6%)より高い傾向が見られた。</p> <p>◇「自分には、よいところがあると思いますか」といった自己効力感に関する項目で、県の調査と同様やや低い傾向が見られる。また、計画的学習や予習・復習の時間も全国平均より少ない傾向がある。</p>	<p>生徒の自己効力感、自己実現力を高める取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサーショントレーニングやコミュニケーションスキルを導入した活動を学活などで行い、良好な人間関係, 集団づくりを行う。</li> <li>・各教科や道徳と関連付けた体験活動の推進 (職場体験学習などでの成功体験, 他者との関わりなど)</li> </ul> <p>学習意欲を高める取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の実施による授業改善の実施</li> <li>・学習に関するオリエンテーションの実施による家庭学習の習慣化と意欲付け</li> <li>・授業規律の徹底</li> <li>・補充活動の実施(放課後, 長期休業中)</li> </ul>

## (2) 教科

教科	生徒の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取り組み
国語	<p>◎「書くこと」の領域では、記述する内容の整理や理由を整理して書くことの通過率が低い。しっかりと確実に書ききらせる指導が十分でなかった。</p> <p>◎「読むこと」の領域で、文脈上の語句の理解と登場人物の心情の把握、指示語の内容の把握について通過率が低く読解力の向上が必要。</p> <p>◇特に記述式の問題形式の設問に対する通過率が他の問題形式に比べて低い。</p>	<p>◎国語の授業では、ノートに自分の考えをまとめて書かせることに重点を置いた指導を行う。国語科以外でも学習内容の整理や感想をじっくり書かせる取組みを行う。また、朝の読書で読んだ本の内容や感想を述べさせるなどの活動も取り入れる。</p> <p>◇ノートやワークシートに意見を書いていくことで、書くことへの抵抗を少なくする。</p>
数学	<p>◎一次方程式の立式や関係を文字式で表す問題の通過率が低い傾向が見られた。</p> <p>◎図形の領域では、おうぎ形の面積の求め方では、本年度も通過率が低い。</p> <p>◇数量関係の領域におけるグラフの考察といった学習した内容を活用する問題の通過率が低い傾向がある。</p>	<p>◎文章を読んで一次方程式を立式する学習についても、反復学習を通して規則を見出させ定着させる活動を増やしていく。</p> <p>◎おうぎ形の面積や円錐の体積を求める問題では、授業においては概ね理解しているが、定期的な繰り返し学習により確実な定着を図る。</p> <p>◇各小単元でのまとめとして、グラフの考察などのような活用の問題に取り組みさせる。</p>
英語	<p>◎「書くこと」の領域において、自分の考えや気持ちなどを読み手に正しく伝わるように書くことの通過率が低い傾向にある。</p> <p>◎「話すこと」の領域では、英語で話すことに苦手意識をもつ生徒がいる。正確に単語や疑問文を聞き取る事ができていないためと考えられる。</p>	<p>◎単語や基本文型についての反復学習を行う。単元テストや小テストを実施し、定着が低い場合には、補充的な指導を実施する。</p> <p>◎音読を繰り返して行い、単語や文章の正しい発音の仕方やイントネーションを身につけさせる。</p> <p>◎学年体制として、5分間ドリルなどを継続して行う。</p>

# 指導改善のための実施スケジュール

	～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
	Plan		Do		Check	検証	Action	Check
	結果の分析・H20の改善計画の見直し H21の改善計画の実施						次年度の計画	
【教科】								
国語	小テスト	確認テスト 小テスト	漢字練習(毎日) 小テスト	確認テスト	暗唱・音読 授業はじめ小テスト実施 授業中に既習事項の復習	確認テスト 小テスト	確認テスト 小テスト	
数学		確認テスト		確認テスト 毎勉ノート		確認テスト	確認テスト	
英語	確認テスト	確認テスト	確認テスト	確認テスト 会話練習	確認テスト	確認テスト	確認テスト	
			補充指導の実施(主に英・数)					
【生活・学習】						検証	次年度の計画	
◎ 結果の分析	◎ 校内研修の実施 ◎ 改善計画策定 ◎ 学習規律, 学習方法等について指導 ◎ 校内授業研究会の実施	◎ 校内研修の実施 全国調査でのB問題を授業の中にどう生かすか。	◎ 校内研修 補充学習の実施について	◎ 校内研修 家庭学習の充実と学習意欲の向上策について	◎ 校内授業研究会の実施	◎ 授業規律, 授業評価アンケートの実施 ↓ 授業改善の進捗状況確認	◎ 本年度の課題の確認と次年度の改善計画作成	